

議会運営委員会 視察報告

藤枝市議会は平成26年5月から第16期がスタートしました。新人議員が8名誕生し、平均年齢も前期に比べ約5歳若返り50代となりました。昨年度は藤枝市議会念願の議会基本条例を制定しましたが、制定がゴールではありません。前期に引き続き議会改革を進めていかなければなりません。

昨年は議会運営委員会として今まで検討してこなかった「議会のICT化」をキーワードに先進都市を視察しましたが、本年は全国的に見ても新しい取り組みを行っている埼玉県飯能市議会と福島県会津若松市議会にお邪魔し、その取り組みについて両市の議員から直接お話を伺い、意見交換をしてきました。

【視察日程】 平成26年10月27日(月)～28日(火)

【視察委員】

水野 明委員長、大石 保幸副委員長、遠藤 久仁雄委員、大石 信生委員
小林 和彦委員、西原 明美委員、萩原 麻夫委員、杉山 猛志委員、
天野 正孝委員、藪崎 幸裕議長、岡村 好男副議長

【視察都市】 埼玉県飯能市、福島県会津若松市

【調査事項】 議会活性化への新たな取り組みについて

(1)飯能市議会……………①ペーパーレス化の推進について他

(2)会津若松市議会……………①議会制度検討委員会の取り組み(特に議員

報酬・定数・政務活動費の検討プロセス)について他

【調査概要】

○飯能市(議会)の概要

人口は83,549人、面積は193.18km²、議員定数は19名で、埼玉県の南西部にあり、東京都心から50km圏に位置する。江戸時代から杉や檜の産地で、木材と織物のまちとして繁栄した。現在、奥武蔵の豊かな自然の中で育まれた情感・歴史・文化を生かしたまちづくりを推進しており、平成17年4月に「森林文化都市」を宣言した。また、議会のICT化にもいち早く取り組み、全国から視察の申し込みも多い。

■ ペーパーレスを目的としたタブレット端末の導入について (飯能市) ■



飯能市議会 内田副議長からのご挨拶



委員の前には、タブレットが…

飯能市議会のタブレットの導入については、飯能市として環境に配慮した取り組みの中で「電気使用量削減」「ごみ排出量削減」の目標は概ね達成できたようだが、「紙使用量削減」の目標達成がかなり厳しい状況であったため、議会としても執行部の取り組みに協力するかたちで、タブレットを有効に活用しペーパーレス化を図ろうというのが背景としてあったようだ。

そんな中、ICT活用による議会改革の推進を図る上で、議会内の情報伝達(メールの利用)、災害時等の緊急連絡(メールの利用)、各種計画等の資料の閲覧(LANの利用)にタブレットを使用することになった。費用面では、導入費用は初期費用205万円、維持費141万円で346万円。1台あたりの通信費年額約6万8千円を、飯能市では独自に費用負担の割合を設定していた。内訳は6分の4を公費、6分の1を政務活動費、6分の1を自己負担としていた。ちなみに端末機器はキャンペーン中で、実質負担額は0円だった。また、端末機の使用にあたって、その使用基準、使用範囲、IT会議基準等を定め、ルール化を図っているのは言うまでもない。

また、導入効果を具体的な数字で表すと、費用削減効果額が年間約210万円、紙使用量削減枚数が年間約10万枚などである。ペーパーレス化対象会議の拡大、災害時の有効利用、タブレット機能・アプリケーションソフトの有効利用などの『利活用の推進』、及び高機能・効率的なシステムの研究や使用基準等の見直しなどの『システム等の見直し』の2点をタブレット導入後の課題と捉え、検討している。

○会津若松市(議会)の概要

人口は126,220人、面積は383.03km²、議員定数は30名で、江戸時代は会津松平藩の城下町として栄え、蔵造りの街並みなどに往時の面影を残す。白虎隊や戊辰戦争に象徴される鶴ヶ城や飯盛山など名所・旧跡が残り、多くの観光客が訪れる。本年度の日経グローバルの議会改革度ランキングでは全国第2位にランクされるなど、早くから先進議会として全国的にも有名である。

■ 議会制度検討委員会の取り組みについて

(特に議員報酬・定数・政務活動費の検討プロセス) (会津若松市) ■



会津若松市議会 戸川議長からのご挨拶



藤枝市議会 水野議運委員長からの挨拶

会津若松市議会は、議会基本条例に基づき政策形成サイクルの確立に取り組んでいる。ここには議会基本条例に規定された政策研究に関わる問題分析・政策立案を行う『政策討論会』があり、下部組織として常任委員会に対応した4つの分科会と重要課題について検討する議会制度検討委員会(以下検討委員会)が設置されている。この検討委員会が、市議会議員の公務性から議員活動日数を算

出し、市民に説明できる議員報酬と定数等を2年近くにわたって検討した。その結果、「議員報酬を750万円、議員定数を30人、政務活動費を月額ひとり当たり3万5千円」とする最終報告の内容を、検討委員長が政策討論会全体会で報告した。その後委員長報告に対する質疑、議員間討議、討論を経て賛成多数で可決(29人中7人が反対)した。

最終報告では議員報酬等について現行通りで確認したが、「必ずしも市民の方々から十分な評価をいただいているわけではない」として、不断の議会改革、議会・議員活動の内容や成果をよりわかりやすく説明していくことを議会のマニフェストとして宣言。今後の取り組み方向として、①議員評価システム・議員白書の検討、②議員活動・議員報酬などをテーマにしたフォーラム、シンポジウムの開催、③議員報酬・議員定数に係わる第三者機関の設置、などを挙げるとともに、「今回の最終報告はあくまでゴールではなく、市民と一緒に継続的に考え、検討していくためのスタートだ」と締めくくっている。

■ 飯能市議会・会津若松市議会の視察を終えての感想 ■

初日、早朝に藤枝を出発し午前中に飯能市議会にお邪魔したが、到着早々庁舎前で、職員のみなさんから温かいお出迎えをいただいた。市長の方針とのことだが、長い議員生活でも初めての経験でした。視察に入り、内田副議長からのご挨拶に続き、飯能市議会の議会改革特別委員会の梶田委員長からご説明いただいた。

パワーポイントの資料はプロジェクターで映し出されてはいたが、配付資料はなくタブレット端末が置かれていた。昨年、逗子市議会を視察した際にもタブレットを多少操作させていただいたが、自分で操作して説明を聞くのも初めての経験だった。前述したとおり、飯能市はペーパーレスからスタートしたわけだが、ペーパーレスは確かに重要だが、ICTとペーパーレスを必ずしもセットで考える必要はないのではないかと考えている。また、当然飯能市のようにしっかりとした利用にあたってのルールを明確に設定していくべきと考える。詳細は、議運なり議会活性化特別委員会で協議していくことになるだろう。

続いて、翌日お邪魔した会津若松市議会には、平成21年度に議会改革研究会が視察させていただいたようで、当時参加した萩原・天野・西原の3議員は懐かしかったのではないかと思います。この5年間で藤枝市議会も飛躍的に改革が進んでいるが、会津若松市議会は改革へのスタートも早かったが、立ち止まることなく全国的にも市議会のトップランナーとして、その歩を進めている感がある。今回は、議員定数・議員報酬・政務活動費などを市民に説明するための根拠づくりに挑戦したその手法を勉強しようと視察先に選ばせていただいた。考え方の特徴として、行革の視点からの削減ありきでなく、議会活動の現状を踏まえつつ、公務性から議員活動日数を算出するなど斬新な手法があげられる。最終報告をまとめあげた当時の委員長である土屋議員からの苦労話や今後に向けての決意等伺い、藤枝市議会も市民に対して、見える化を推進することの大切さを改めて感じた研修だった。